

第 25 回 日本免震構造協会賞 – 2024 –

第 25 回日本免震構造協会賞は、右の6件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造等の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することにより、免震構造等の技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に、業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

表 彰

2024年6月14日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

山梨知彦（委員長）

大西宏治 城所竜太 小林恵吾 小林 仁

齊藤大樹 榊間隆之 佐々木大輔

審査経過

前提および共通事項

本年度の免震構造協会賞選定作業は、直前に発生した能登半島地震を受け、専門家としての重責を感じつつ、熱意を持って進められました。本年応募があったのは技術賞と作品賞の2部門のみであったため、両賞ともにもまず詳細な応募資料検討を経て、作品賞についてはさらに現地審査の結果も考慮して審査を行いました。事前投票の後、2024年1月24日のWeb会議で慎重に審議を重ね、最終的に審査員全員の一致で受賞作を決定しました。

技術賞

応募総数は3件でした。事前投票で1件が過半数の支持を、もう1件が半数近くの支持を得ました。議論を経て、「想定レベル2地震に対応する戸建免震住宅の革新的取り組み」と「慣性質量装置を用いた新しい防振床機

選 考 結 果

第 25 回日本免震構造協会賞受賞は下記の 6 件である。

I 技術賞

- 1) 想定レベル2地震を超える巨大地震に備えた戸建免震住宅の取り組み
株式会社一条住宅研究所 高橋武宏
株式会社一条工務店 及川孝則 平野 茂
H.R.D. SINGAPORE PTE LTD 落合 誠 和木 洋
- 2) 慣性質量装置を用いた防振床機構「ダイナミック・ライブ・フロア」の開発
清水建設株式会社 小槻祥江 青木 貴
今井克彦 半澤徹也

II 作品賞

- 1) 九段会館テラスー歴史的価値を活かしながら再生ー
鹿島建設株式会社 上野正夫 久田昌典
土井原泉 山本幸彦
- 2) 東京アクアティクスセンター
株式会社大林組 浅岡泰彦
株式会社山下設計 曾根拓也
Arup 柴田育秀
- 3) 尾道市本庁舎
株式会社日建設 大河 肇 田代靖彦
軸丸久司 仁科誠治
末國良太
- 4) T & T IIIビル
株式会社久米設計 伊東和宏 細川慎也
渡瀬利則

(敬称略)

構『ダイナミック・ライブ・フロア』が、その技術的価値と革新性により、審査員全員の支持を得て技術賞に選ばれました。

作品賞

16 件の応募から9件が現地審査の対象となりました。次に、現地審査の結果を踏まえた投票を行い、得票が少なかった5件をまず除外し、4作品を作品賞候補として議論しました。この4作品の中では、先ず「九段会館テラス」と「T&T IIIビル」は、それぞれの免震技術の応用が建築と高いレベルで融合している点が高く評価されました。次に「東京アクアティクスセンター」と「尾道市本庁舎」は、免震構造が建築のデザインに生かされている点が評価されました。最終投票でこれら4作品がいずれも過半数の支持を獲得し、審査員全員の一致で作品賞として選定されました。

(山梨 知彦)